

|       |   |       |                 |       |         |
|-------|---|-------|-----------------|-------|---------|
| 受理年月日 | 令和3年9月10日   | 付託年月日 | 令和3年9月13日       | 所管委員会 | 総務財政委員会 |
| 番号    | <b>3 年 請 願 第 1 1 号</b>  |       |                 |       |         |
| 件名    | 平和資料館の設置について  |       |                 |       |         |
| 請願者   | 中央区大名二丁目2-51-203<br>福岡市に平和資料館の設置を求める会<br>末永 節子 外 27,905 人 (R3.9.10) - 30,878 人 (R4.1.20)  |       |                 |       |         |
| 紹介議員  | 山口(湧) [筆頭]、倉元、堀内、松尾、中山、成瀬、宮浦、荒木、森(あ)  |       |                 |       |         |
| 分割付託  | なし  |       |                 |       |         |
| 要 旨   | <p>福岡の街は、終戦から2か月前の1945年6月19日深夜、米軍のB29爆撃機221機の襲撃を受け、博多湾海岸線から櫛田神社、大濠公園までの一帯が被災、当時の福岡市の実に3分の1を焼失し一面の焼け野原と化しました。罹災戸数は1万2,856戸、罹災者数は6万599人、死者・行方不明者は1,146人に達しました。</p> <p>1979年福岡市発行の市制90周年記念誌「福岡の歴史」によると、博多港は敗戦後、海外に進出していた日本人の引揚港として港の全機能を発揮して、国家的重大使命を果たしたのです。博多引揚援護局史によると、博多港引揚者数は139万2,429人、戦時中在日していた朝鮮人等の送出数は50万5,496人とされていますが、終戦直後に釜山から漁船をチャーターして帰国した人も相当数あり、それらの人を加えると博多港はわずか1年半ほどの短期間に、およそ200万人が往来した民族大移動の拠点となっていました。これらのほかにも市内では、戦争にまつわる様々な悲惨な出来事がありました。</p> <p>また、福岡市は広島、長崎両市に次いで、被爆者が多い都市でもあります。人類史上初めて使用された大量殺人兵器・原子爆弾が3度使用されるようなことがあってはなりません。しかし、ヒロシマ・ナガサキから75年を経た今、なお世界には1万3,400発の核兵器が存在しています。3年前の国連総会で可決した核兵器禁止条約の批准国が50か国となり、2021年1月に発効することになったことは私たちの希望です。</p> <p>私たちは、かつての悲惨な戦争の歴史を忘却の彼方に追いやるのではなくしっかりと記憶し、さらに次の世代にきちんと引き継いでいくことが求められています。そこで、この地における博多港引揚と福岡大空襲、さらに人類を破滅に導く原子爆弾を投下されたヒロシマ・ナガサキなど戦争と郷土の歴史を記憶にとどめ、後世に引き継いでいくため、福岡平和資料館（仮称）が創設されることを強く願い、以下の事項を請願します。</p> <p>1. 福岡市に平和資料館を設置すること。</p> |       |                 |       |         |
| 審 査   | 令和 年 月 日  | 結 果   | 委員会             |       |         |
| 年 月 日 | 令和 年 月 日  |       | 令和 年 月 日        |       |         |
|       | 令和 年 月 日  |       | 本会議<br>令和 年 月 日 |       |         |

2021年9月10日

福岡市議会議長 伊藤嘉人様

# 平和資料館の設置を求める請願書

## 【請願者】

「福岡市に平和資料館の設置を求める会」

〒810-0041 福岡市中央区大名 2-2-51-203

熊谷敦子 末永節子 堀田広治

他 27903名

## 【請願趣旨】

福岡の街は、終戦から2ヵ月前の1945年6月19日深夜、米軍のB29爆撃機221機の襲撃を受け、博多湾海岸線から櫛田神社、大濠公園までの一帯が被災、当時の福岡市の実に3分の1を焼失し一面の焼け野原と化しました。罹災戸数は12,856戸、罹災者数は60,599人、死者・行方不明者は1,146人に達しました。

博多港は敗戦後、海外に進出していた日本人の引揚港として「港の全機能を発揮して、国家的重大使命を果たした」（市政90周年記念誌「福岡の歴史」1979年福岡市発行）のでした。博多引揚援護局史によると博多港引揚者数は139万2429人、戦時中在日していた朝鮮人等の送出数は50万5496人とされていますが、終戦直後に釜山から漁船をチャーターして帰国した人も相当数あり、それらの人を加えると博多港はわずか1年半ほどの短期間に、およそ200万人が往来した民族大移動の拠点となっていました。これらの他にも、福岡市内では、戦争にまつわるさまざまな悲惨な出来事がありました。

また、福岡市は広島・長崎両市に次いで、被爆者が多い都市でもあります。人類史上初めて使用された大量殺人兵器・原子爆弾が三度使用されるようなことがあってはなりません。しかしヒロシマ・ナガサキから75年を経たいま、なお世界には13,400発の核兵器が存在しています。3年前国連総会で可決した核兵器禁止条約の批准国が50カ国となり、2021年1月に発効することになったことは私たちの希望です。

私たちはかつての悲惨な戦争の歴史を忘却の彼方に追いやるのではなくしっかりと記憶し、さらに次の世代にきちんと引き継いでいくことが求められています。そこでこの地における博多港引揚と福岡大空襲、さらに人類を破滅に導く原子爆弾を投下されたヒロシマ・ナガサキなど戦争と郷土の歴史を記憶に留め後世に引き継いでいくため、福岡平和資料館（仮称）が創設されることを強く願い、ここに請願書を提出いたします。

## 【請願項目】

1. 福岡市に平和資料館を設置すること。